

井波地域 会議録

件名	まちづくり検討会議からの提言の実現に向けた今後に係る意見交換会（井波地域）		
日時	平成31年4月2日（火）	場 所	井波社会福祉センター 2階 研修室
出席者	まちづくり検討会議委員：8名、地域審議会委員：8名、事務局：5名		
内容	・今後の進め方（新しい検討組織のあり方） ・合意形成の図り方		
概要	<p>●新検討組織体制は資料 P2 の案①②③の中から選ぶのか？新組織に行政は必ず関わってほしい。ワーキンググループもあった方がいい。小規模多機能自治が始まったばかりで時間が無く、考える余裕もないというのが正直なところ。皆さんそれぞれ忙しいと思うが、何とかして進めなければならない。 →案①②③はあくまでも案として示したもの。</p> <p>●まちづくり検討会議のメンバーは、提言後にも非公式で3回ほど集まっている。地域審議会とまちづくり検討会議に、行政のサポートが加わるような体制にした上で、意見交換する機会を増やせば問題点も分かりやすくスピーディに決定していけるのではないか。</p> <p>●2月の地域審議会での庁舎の利活用に関する意見をどのように解決、調整していくか。費用面の情報提供をお願いしたい。具体的な数字を示さないと、今後の検討がスムーズに運ばない。 →維持管理も考えていかないといけない。稼げる施設になると一番良いが、議論が難航するようならこのハード面の優先順位を下げて、他の優先順位を上げて検討を進めるというのも方法である。</p> <p>●今ある施設について、今後の使い方を明確にしないと金額も計算出来ない。何をしたいかを決めるのが一番先。まちづくり検討会議メンバー以外の意見を聞く必要があるし、どんな人に加わって欲しいという検討も必要。</p> <p>●「鍋」があっても「中身」が決まらないと試算出来ない。市民が積み上げた意見をまな板に上げて検討する方法が、みんな納得出来ると思う。鍋の種類をたくさん作って小分けして議論する方法が良いのでは。ある程度行政主導の市民主体であれば、責任も担保されるのではないか。</p> <p>●意見の方向性が交わっていない。意見のベクトルを整える必要がある。</p> <p>●井波は瑞泉寺や彫刻に関わりのある人が市内外に非常に多いことから、より広く意見を求めた方がより良いものになるのではないか。</p> <p>●ワーキンググループは、小規模多機能自治の部会制と同じように進めると分かりやすいのではないか。</p> <p>●なるべく大勢の人によるワークショップを行って広く市民の声を拾って、議論を深めるべき。</p> <p>●案②が良いのでは。ワーキンググループの進め方については、ワーキンググループに入る前の段階で出来るだけたくさんの人による意見の絞込みを数回実施した後、ワーキンググループのテーマに沿った人選をし、ワーキンググループを行う、というのはどうか。この人選が一番重要になる。</p> <p>●2月の地域審議会での資料を見て、まちづくり検討会議の提言が地域審議会でも受け入れられなかったことがとても残念に感じた。</p> <p>●案①②③ともどれも良いが、まちづくり検討会議のメンバーを中心に据えて、今後の検討を進めれば良いのではないか。また、4地域の提言に伴う市の予算配分を考えると、地域差が大きく生じるのではないか。井波はなるべくお金をかけないようにしていく方向であるが、バランスを考慮してもらわないと納得出来ないと思う。</p>		

- 女性の意見、特に若いお母さんの意見を吸い上げてほしい。ワーキンググループを開催するならば、夜だけでなく、託児室を設置して日中にも開催して意見を聞いてほしい。
- 様々な世代の意見を吸い上げて、まちづくりを進めてほしい。特に、独り暮らしの高齢者は自分のことしか考えていないが、それらの意見も大事。
- 新しく人を増やして検討するのは、改めて説明するのが大変であるが、賛成。町部だけでなく、村部の人の意見も取り入れるべき。思い入れが町部の人とは異なるかもしれない。
- 市の合意形成のタイミングはいつになるのか。
→総合計画審議会で了解が得られた時点と考えている。
- 新しい人が入ることで新しい意見が出ることになるのであれば、ある程度合意形成を図りながら、検討を進める必要がある。
- また一から考え直しになるのか？提言を整理して、何を残したいか、何を生かしたいか、目標を決めてから本論に入ったほうが良いのではないか。
- もともとは庁舎統合の議論から始まった話。庁舎のことを抜きにして話は進まない。まずは庁舎のことを決めていくことが必要。
- 提言の内容を掘り下げて、説得力のあるものにしてほしい。そのために、専門家に加わってもらって理論的に考えるのはどうか。まちづくり検討会議メンバー主体の検討組織で目一杯議論してもらって、その内容を地域審議会で諮る。理論的に説明すれば、反対意見は出ないと思う。
- 2020年7月で井波庁舎が空き家になるとすれば、早く実施設計のための予算や工程表を示してほしい。
- 合意形成を図る組織については、メンバーを+αで募集して広げていけばどうか。100人くらいになってもいいのではないか。
- 地域審議会+大学等による、井波地域独自の審議会を組織して、行政からの具体的な数字の提示等によるサポートを受けながら、ワーキンググループや部会などで出た意見をその審議会に諮ればどうか。
- ワーキンググループから直接、地域審議会へ意見を上げるのは敷居が高いので、ワーキンググループと地域審議会との間に専門家を交えた検討組織（プロジェクトチーム）を入れてはどうか。プロジェクトチームでは、市民の一人としてのスタンスで、地域審議会とまちづくり検討会議からも若干名加わり、合意形成の下準備として地域審議会とワーキンググループとの意見の摺り合わせを行う。プロジェクトチームで、中間と最終のタイミングで紙面により住民周知を行う。そして、合意形成は地域審議会で行うというのはどうか。
- プロジェクトチームのメンバーも随時募集したら良い。年齢層を広げて、発言力のある人も入れて、郊外の人も入れて。
- まちづくり検討会議の中で、地域審議会とのやりとりが少なかったのが残念であった。今後はそのようなことが無いように。
- 小規模多機能自治とのリンクも必要。